

橘夫人念持仏

橘夫人は、第 45 代天皇の聖武天皇（701～756 年）の妃である光明皇后（701～760 年）の母親である。この木製の厨子とその中に収められている 3 体の精緻で精密な金銅製の仏像をいつも拝んでいたのが、橘夫人であるとされている。この仏像には初唐の影響がみられ、制作されたのは 7 世紀の後半だと考えられている。その仏像は、阿弥陀如来と 2 人の菩薩であり、それぞれ蓮の花の形をした蓮華座の上にあらわされている。蓮は泥の中から生えてくるにもかかわらず、美しい花を咲かせる。これは執着や欲望に満ちた泥のような現実社会があるからことごとりが得られることを意味する。厨子の側面には様々な菩薩や「金剛力士」と呼ばれる仏教の守護者が描かれており、また背面には阿弥陀如来の浄土に往生したばかりの菩薩たちも描かれている。歴史家の中には、この厨子は極東美術の最高傑作であると主張する者もいる。